

守山企業景況調査報告書

(第8回)

平成23年7月～平成23年9月期 実績

平成23年10月～平成23年12月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 23 年 7 月～平成 23 年 9 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	19	95.0%
製造業	13	13	100.0%
建設業	12	12	100.0%
サービス業	20	19	95.0%
卸売業	6	6	100%
合計	71	69	97.2%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 23 年 7 月～平成 23 年 9 月、見通しを平成 23 年 10 月～平成 23 年 12 月とし、調査時点は平成 23 年 9 月 30 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 23 年 7 月～9 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 23 年 7 月～9 月期の調査結果によると、業況、売上高、資金繰りの指標が改善している。業況は▲27.5 から▲27.9 と 0.4 ポイント改善し、売上高は▲28.6 から▲15.9 と 12.7 ポイントの改善、採算（経常利益）は▲52.9 から▲36.2 と 16.7 ポイントの改善、資金繰りは▲20.6 から▲14.3 と 3.6 ポイント改善している。

10～12 月期見込みでは、採算（経常利益）が 20.3 ポイント改善の見込み、資金繰りが 3 ポイントの改善の見込みであるが、業況は 8 ポイント、売上高は 10.2 ポイントの悪化見込みとなっている。

<業況>

平成 23 年 7～9 月期の業況は▲27.9 と前回調査に比べて 0.4 ポイントの悪化となった。業種別では、小売業が▲42.1、製造業が▲15.4、建設業が▲33.3、サービス業が▲16.7、卸売業が▲33.3 となっており、製造業、サービス業とその他の 3 業種で業況の違いが出ている。

10～12 月期の業況見通しは全体で▲35.9 と悪化しており、建設業を除く 4 業種が悪化見通しとなっている。

<売上高>

売上高の 7～9 月期の DI 指数は▲15.6 であった。前回調査に比べると 12.7 ポイントの改善となっている。業種別では、小売業が▲36.8、製造業が 0.0、建設業が▲16.7、サービス業が▲15.8、卸売業が 16.7 となっており、製造業、卸売業とその他の業種で売上高は色分けができています。

10～12 月期見通しは、全体で▲26.1 と悪化見通しであり、建設業を除く 4 業種が悪化見通しとなっている。

<採算（経常利益）>

採算は全体で▲36.2 となり、前回調査より 16.7 ポイント改善した。業種別では小売業が▲31.6、製造業が▲30.8、建設業が▲66.7、サービス業が▲26.3、卸売業が▲33.3 となっており、建設業のマイナスがきわだっている。

10～12 月期の見通しでは全体で▲37.7 と悪化を見通しており、大きな改善見通しは見られない。

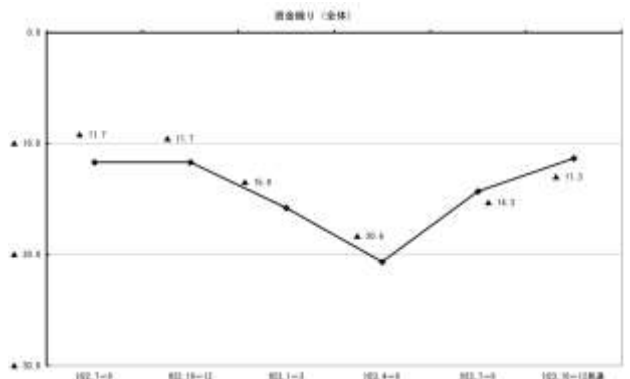
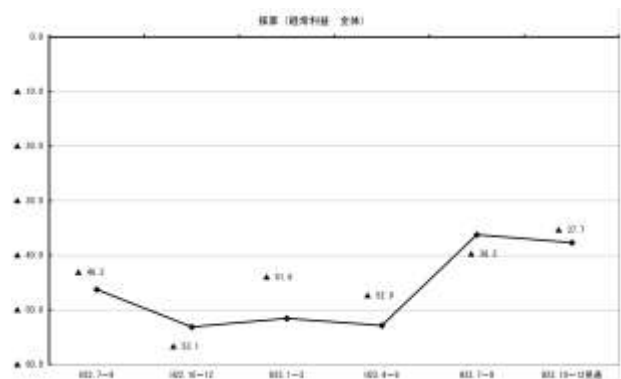
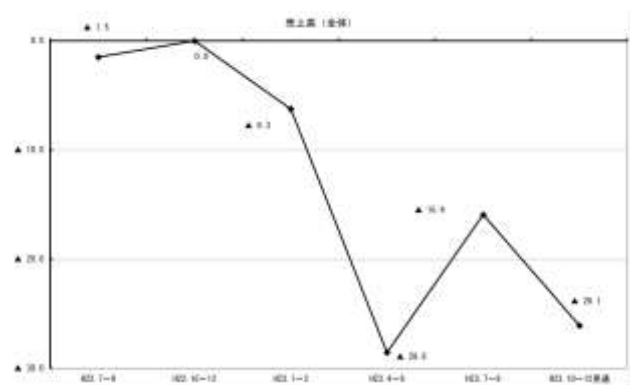
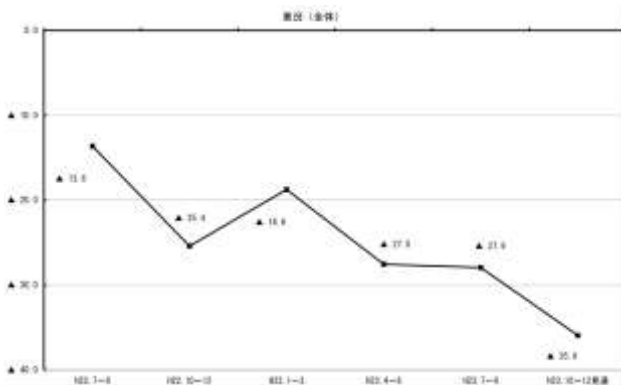
<資金繰り>

資金繰りのDI指数は▲14.3となり、前回調査の▲20.3と比べると6.3ポイントの改善になっている。業種別では、小売業が▲22.2、製造業が0.0、建設業は0.0、サービス業が▲23.5、卸売業が▲16.7となっており、製造業、建設業とその他の3業種という図式である。

10～12月期の見通しは全体で▲11.3と3ポイントの改善見通しである。

<その他の意見>

- ・「生活防衛」が国民の総意であるとするならば物は売れない。生活を安定させること、日本経済の建て直し、政治・経済、分化のドタバタを止めないと、国民は自衛に走る以外道はない。
- ・国や地方の負債残高対策、年金、医療保険の早急な対応、シルバー世代の消費喚起策など従来の型を破った抜本的改革が必要。



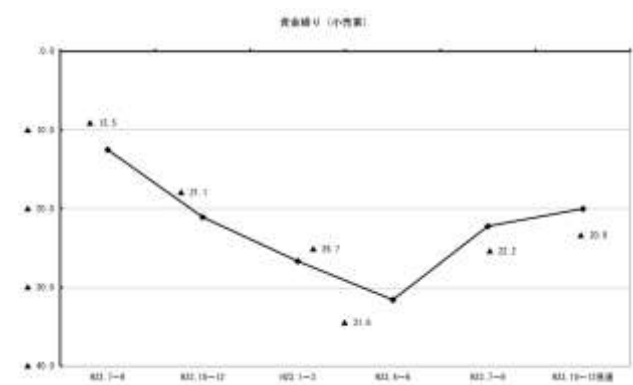
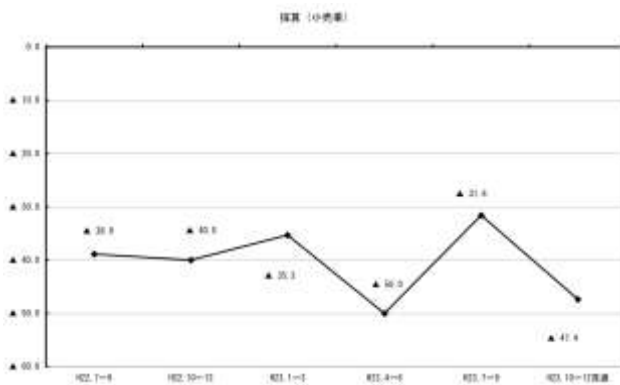
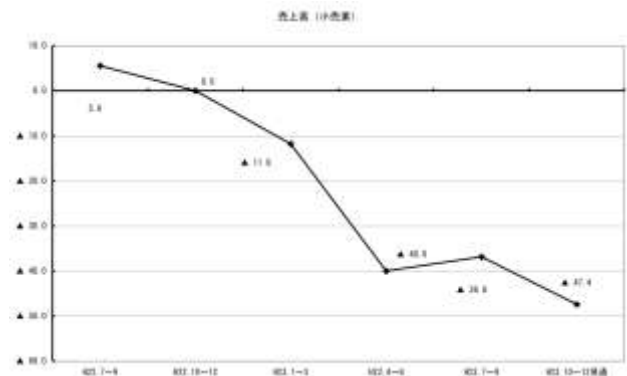
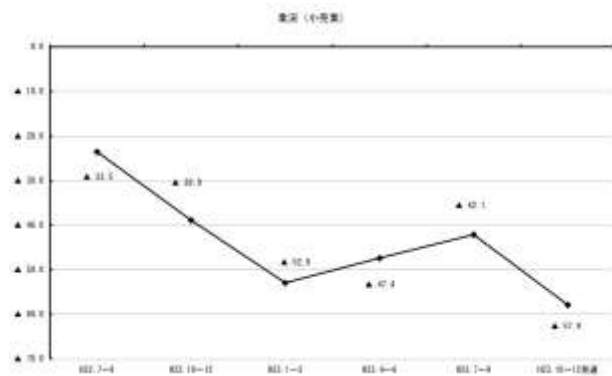
小売業

小売業の業況DI指数は▲42.1であり、2四半期連続の改善となった。前回調査に比べて5.3ポイントの改善である。しかし、10～12月期の見通しでは▲57.9と大きく下落見通しであり、改善と悪化を繰り返しながら悪化傾向に歯止めがかかっていない。

売上高のDIは▲36.8と前回調査より3.2ポイント改善している。10～12月期の見通しでは▲47.7となっており、平成22年7～9月期の5.6をピークに悪化傾向が止まっているとは言えない。そのことは、10～12月期の客単価、来店客数見通しでも出ており、客単価は▲47.4、来店客数は▲52.6と前年同期に比べて落ち込みを予想している事業所が多いことでもうかがい知ることができる。

採算（経常利益）のDIは▲31.6と前回調査より18.4ポイント改善している。10～12月期の見通しでは▲47.4となっているので、この指標も悪化傾向のままであると言える。

資金繰りDIは▲20.2と前回調査より9.4ポイント改善している。10～12月期見通しが▲20.0であることを考えると、資金繰りに関しては少し改善傾向が出ているように見える。



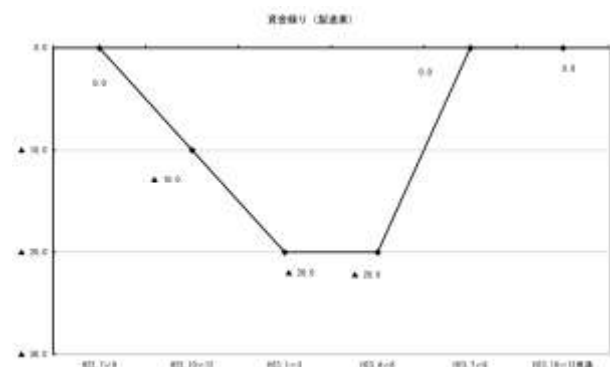
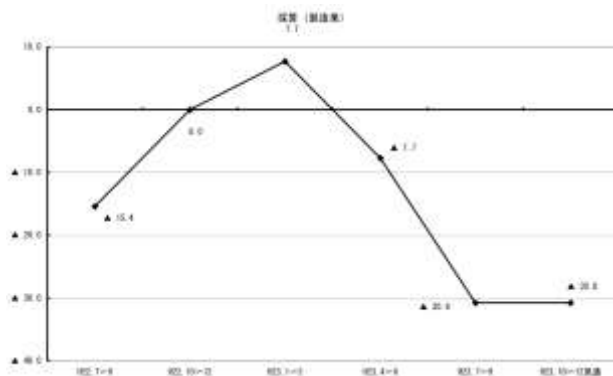
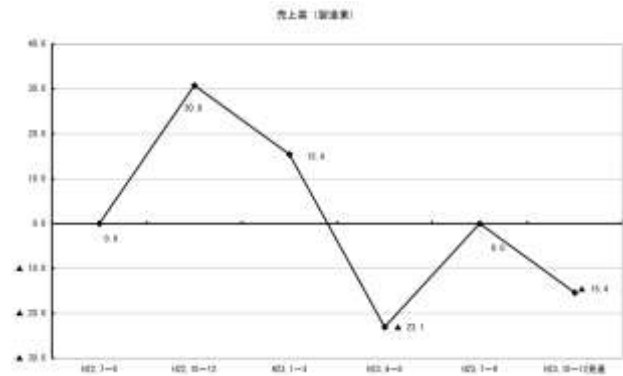
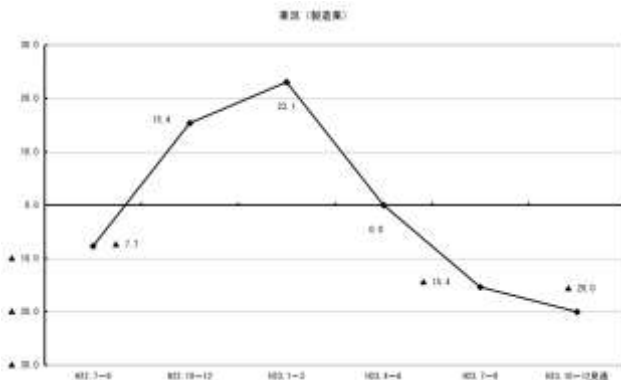
製造業

製造業の業況DIは▲15.4となり、2四半期連続の悪化となった。10～12月期の見通しも▲20.0と7～9月期からさらに悪化している。1～3月期まで順調に回復していた製造業の業況出あるが、ここにきてはっきりと悪化傾向が出てきているようである。

売上高DIは0.0と前回調査と比べると23.1ポイントの改善である。10～12月期見通しは▲15.4であるので、売上高も良い方向に向っているとは言いがたい。ただし、個別の調査結果を見ると、売上高が増加していると回答している事業所と減少している事業所が入り交じっていることから事業所ごとの格差がかなりあるようである。

採算（経常利益）DIは▲30.8と前回調査より23.1ポイント悪化している。10～12月期見通しも▲30.8であるので採算も好転見通しは見えていない。しかし、個別の10～12月期単独の採算見通しは63.6%の事業所で黒字となっていることから、採算は黒字ではあるが悪化傾向であると言える。

資金繰りDIは0.0と前回調査に比べて20ポイント改善した。10～12月期見通しも0.0であるので、資金繰りは安定していると言える。



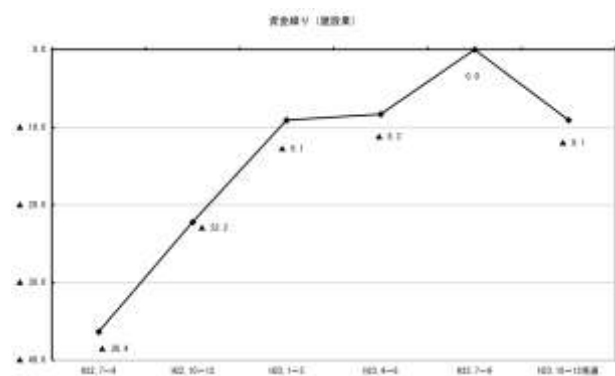
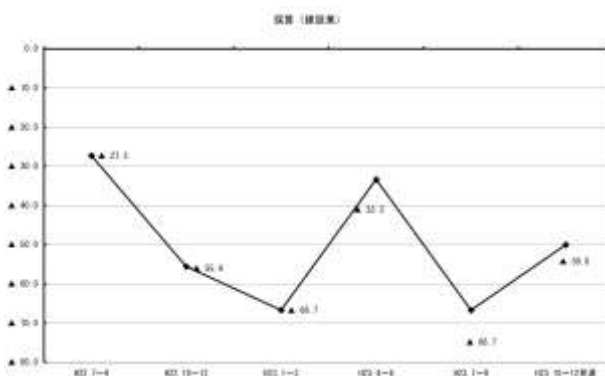
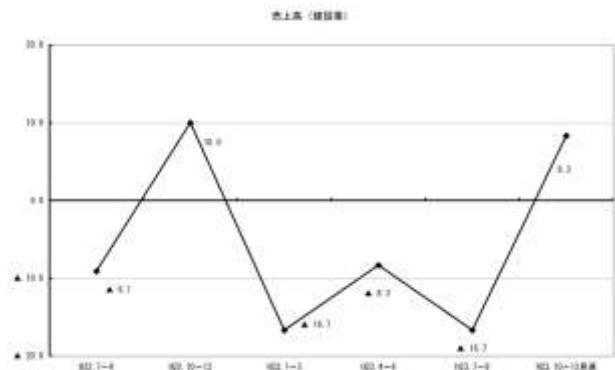
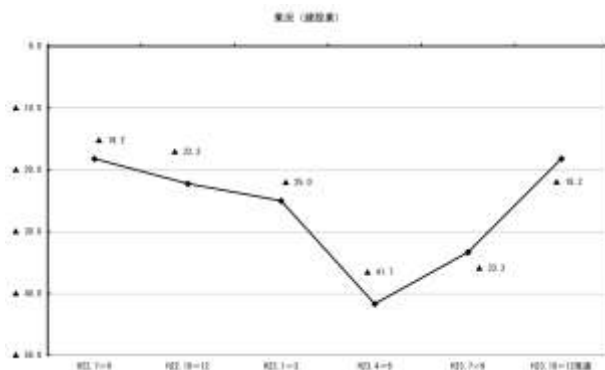
建設業

建設業の業況DIは▲33.3と前回調査より8.4ポイントの改善となった。10～12月期の見通しも▲18.4となっており、業況は改善方向のように調査結果が出ている。個別の回答を見ると、一部の事業所は業況が良く、その他の事業所の業況は悪いまたは不変となっているので、事業所間格差が出ているようである。

売上高DIは▲16.7と前回調査に比べて8.4ポイントのマイナスであった。10～12月期の見通しでは8.3とプラスに転じている。昨年の10～12月期も10.0とプラスであったので季節要因が働いている可能性もある。また、売上高も一部の事業所では増加と回答しており、ここでも事業所間格差が出ているようである。

採算（経常利益）のDIは▲66.7と前回調査に比べて33.4ポイント悪化した。10～12月期見通しでは▲50となっており、採算が好転しているとは言えない状況にある。しかし、個別の回答を見ると7～9月期で黒字と回答している事業所が一部にあり、10～12月期単独の採算も一部では黒字を見通している。

資金繰りDIは0.0と5四半期連続で改善となった。10～12月期見通しでは▲9.1となっている。他の主要指標と同じように資金繰りでも一部の事業所は好転していると回答しており、事業所間格差が出ているようである。



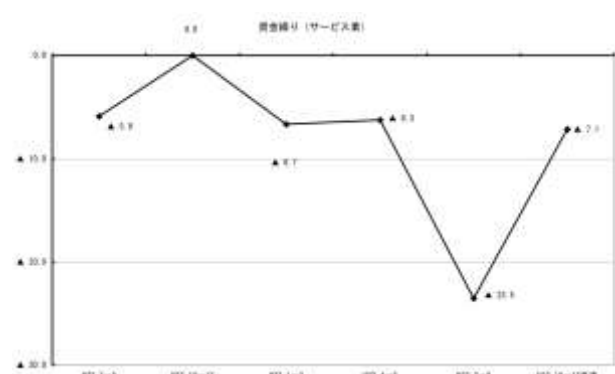
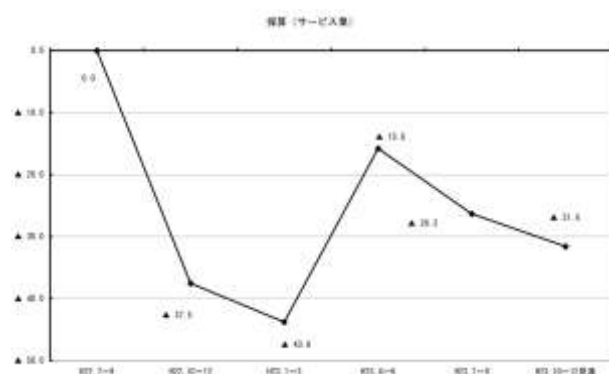
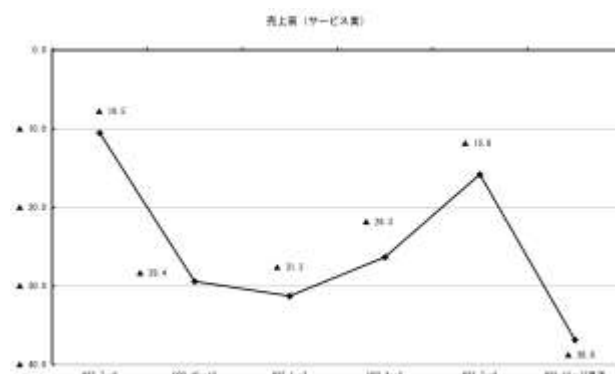
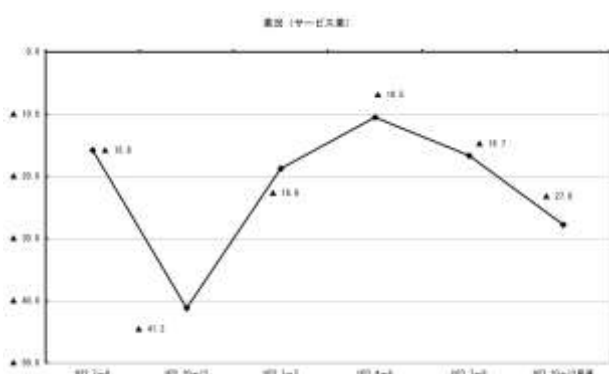
サービス業

サービス業の業況DIは▲16.7と前回調査よりも6.2ポイント悪化した。10～12月期の見通しは▲27.8である。業況は4～6月期をピークとする山型を描いているが、平成22年10～12月期が最近の谷底なので季節的な要因があるかもしれない。また、サービス業の中でも業況の判断が良好と悪いに二局化しているのが、事業所間格差もでてきているようである。

売上高DIは▲15.8と前回調査と比べて10.5ポイント改善した。2四半期連続の改善である。しかし、10～12月期見通しが▲36.8であるので、これも季節的な要因がある可能性が否定できない。売上高や客単価や客数においても善し悪しの判断が二局化しているのが事業所間格差の広がりが出てきているようである。

採算（経常利益）のDIは▲26.3と前回調査より10.5ポイント悪化している。10～12月期見通しは▲31.6である。ここでも事業所間格差が明確になっており、7～9月期単独での採算が黒字の事業所がある一方で赤字事業所もあり、10～12月期単独での見通しも同様に黒字事業所と赤字事業所が混在している。

資金繰りDIは▲23.5と過去1年で最低の結果となった。しかし、10～12月期見通しは▲7.1と4～6月期の水準に戻している。資金繰りは個別の調査結果でも良いとする事業所がほとんどなく、おしなべて悪化または変わらないようである。



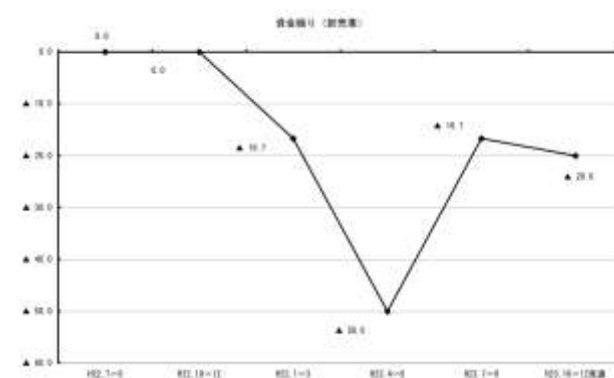
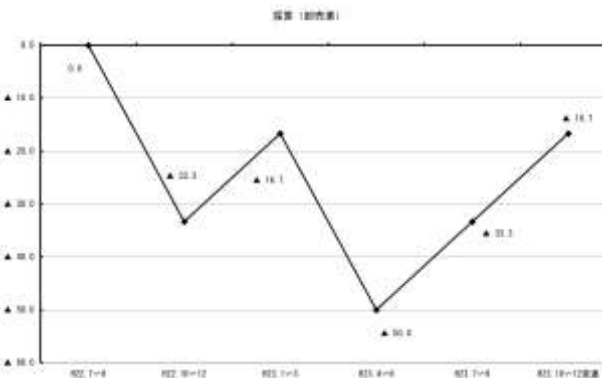
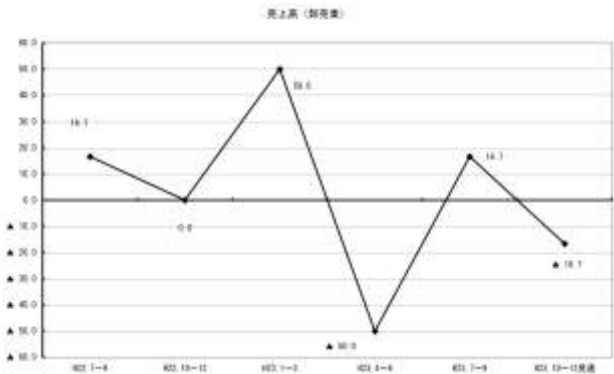
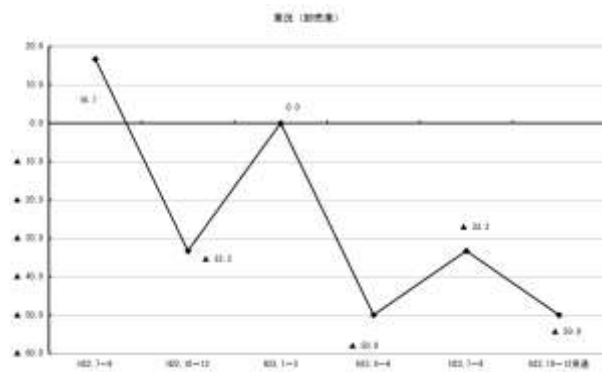
卸売業

卸売業の業況DIは▲33.3と前回調査に比べて16.7ポイント改善している。10～12月期見通しは▲50と4～6月期に逆戻りしている。平成22年7～9月期の業況が16.7であったので、平成23年7～9月期は前年同期でDiを比較すると50ポイント下落したことになる。長期的な傾向としては右肩下りなのであろうか。

売上高DIは16.7と前回調査に比べて66.7ポイントの大幅上昇となった。10～12月期見通しは▲16.7である。ただし、売上単価は前年同期に比べて落ちているといえる事業所数が圧倒的で売上数量が伸びていることで売上高を押し上げられていることがわかる。

採算（経常利益）のDIは▲33.3と前回調査に比べて16.7ポイント改善している。10～12月期見通しでは▲16.7となっており、7～9月期に続いての改善見通しである。7～9月期単独での採算は16.7%が黒字事業所であり、10～12月期単独見通しでも16.7%が黒字見通しとなっている。

資金繰りDIは▲16.7であり、前回調査より33.3ポイント改善している。10～12月期見通しでは▲20となっている。資金繰りに関してみれば、個別事業所の回答でも好転すると回答している企業がないことから、卸売業の回答企業全てで資金繰りは好転していないと言える。ただ、長期借入れ難度、短期借入れ難度、借入金利のいずれにも変化なしと回答企業の全てが回答しているので、すぐに資金問題が起こるとは考えにくい。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	7～9 月期 動向	10～12 月 期見通し	7～9 月期 動向	10～12 月 期見通し	7～9 月期 動向	10～12 月 期見通し
全 体	▲ 27.9	▲ 35.9	▲ 15.9	▲ 26.1	▲ 36.2	▲ 37.7
小売業	▲ 42.1	▲ 57.9	▲ 36.8	▲ 47.4	▲ 31.6	▲ 47.4
製造業	▲ 15.4	▲ 20.0	0.0	▲ 15.4	▲ 30.8	▲ 30.8
建設業	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 16.7	8.3	▲ 66.7	▲ 50.0
サービス業	▲ 16.7	▲ 27.8	▲ 15.8	▲ 36.8	▲ 26.3	▲ 31.6
卸売業	▲ 33.3	▲ 50.0	16.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 16.7

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	7～9 月期 動向	10～12 月 期見通し	7～9 月期 動向	10～12 月 期見通し	7～9 月期 動向	10～12 月 期見通し
全 体	9.0	▲ 3.0	▲ 33.8	▲ 33.3	▲ 1.6	▲ 7.9
小売業	15.8	▲ 5.3	▲ 35.3	▲ 33.3	25.0	▲ 6.7
製造業	54.5	63.6	▲ 36.4	▲ 9.1	7.7	0.0
建設業	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 9.1	0.0
サービス業	▲ 10.5	▲ 15.8	▲ 36.8	▲ 42.1	▲ 27.8	▲ 22.2
卸売業	16.7	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	7～9月期 動向	10～12月 期見通し	7～9月期 動向	10～12月 期見通し	7～9月期 動向	10～12月 期見通し
全 体	▲ 14.3	▲ 11.3	7.4	4.2	7.8	6.5
小売業	▲ 22.2	▲ 20.0	▲ 7.7	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 16.7
製造業	0.0	0.0	27.3	22.2	20.0	25.0
建設業	0.0	▲ 9.1	0.0	0.0	9.1	10.0
サービス業	▲ 23.5	▲ 7.1	14.3	15.4	15.4	16.7
卸売業	▲ 16.7	▲ 20.0	0.0	0.0	0.0	0.0